

7/14
泉民福井

「内閣の独断

許容できず」

専門家の、廃案主張

憲法や安全保障の専門家らによる「国民安保法制懇」は十三日、日本プレスセンタービル（東京都千代田区）で記者会見し、集団的自衛権の行使容認は違憲

だなどとして、安保法案の廃案を求めた。法案採決には反対の声を上げていくと強調した。

会見には七人が出席。早

大教授の長谷部恭男さんは「違憲である点については決着している。衆院での採決は予測がつかないが、参院に送られても反対してい

く」と話した。

元内閣法制局長官の大森政輔さんは、集団的自衛権について「行使できると判断することは内閣の独断であって、許容することはできない。（行使できないとの見解は）自衛隊創設時から堅持してきた」と強調。

東京大名誉教授の樋口陽一さんも、集団的自衛権の行使容認がこれまでの政府見解の枠内にあるという主張は強弁だとし、「国会審議の何十年にもわたる真面目な攻防を侮辱している」と批判した。